

西洋アンティーク評論家

岩崎 紘 昌

トーク & お宝鑑定大会



テレビ東京系 「開運！ なんでも鑑定団」
レギュラー出演中

プロフィール

- ◎昭和21年5月3日生 札幌市出身
- ◎中央大学法学部卒業
- ◎在学中2年間にわたり世界75ヵ国をひとり旅する。
- ◎帰国後、西洋アンティーク輸入販売の道に入る。
鑑定歴27年。
- ◎NHK文化センター講師
- ◎東京アンティークニュース編集長
- ◎近著：「鑑定の鉄人」(二見書房)、「西洋アンティークの目利きになる本」(実業之日本社)、「テディベアの本」(文芸春秋)、「アンティーク商売」(ダイヤモンド社)
- ◎血液型 A型
- ◎趣味 旅行、本の塊集

「鑑定とはなんだ!!」

— テレビ「鑑定団」裏話秘話 —

昨年、鑑定依頼に来た60代の男性の掛軸は印象に残っている。

「自己評価額2000万円」。鑑定の結果、「鑑定額は2000円!!」。

これだけ開きのある依頼品はめったに出るものではない。男性の、掛軸を巻く手は、ガタガタと震えていた。無事に家に帰っただろうか…。

7年間、テレビ「なんでも鑑定団」に出演していて、「鑑定とは何なのか?」、「人はなぜ見てもらいたいのか?」、「値段とは何なのか?」という素朴な疑問を感ずることがある。

当日は、そんな体験を、皆さんに是非話したいと思っている。無論、希望の方のものは、その場で「鑑定」致します。

鑑定品募集中!!

自分の周りになにかあって、「是非、価値が知りたい」「自分の真贋鑑定眼を問いたい」あるいは「家人の収集癖に疑問を感じている」などと常々考えていたみなさま。この機会に岩崎先生に鑑定してもらってはいかがでしょう?

10月15日までに、鑑定依頼品の写真(上方向、横方向の2枚)にそのエピソードを添えて、住所、氏名、電話番号を明記のうえ、下記の連絡先までご郵送ください。採否につきましては、後日連絡いたします。なお、お申し込みいただいた写真等は返却いたしませんので、あらかじめご了承ください。

連絡先 951-8514 新潟市学校町通り2-5274

新潟大学歯学部学務係内 歯学祭実行委員会

電話 (025) 227-2798

(今回、法律上の制限から、銃刀の鑑定は遠慮させていただいております)



頼りになる。

来て！ 見て！ 触れて！ — 体験しよう —

ムシ歯はどうしてできるのでしょうか？

痛い痛いムシ歯。みなさんはこのムシ歯がどのようにできるか知っていますか？

ムシ歯の原因は何か、ミクロの世界ではどうなっているのか、などについてわかりやすく丁寧に説明いたします。

ミラクル体験ゾーン

レモンを食べたのに、もしそれが甘かったら、とても不思議ですね。でも、ミラクルフルーツならこれが可能です！

今回生理学教室では楽しみながら味覚について少し賢くなる企画をたくさんご用意しました。ミラクルフルーツやギムネマ茶と一緒に摩訶不思議な体験をしてみませんか!?

あなたの骨は大丈夫!?

わが国で、骨粗鬆症を患っているひとがどのくらいいるかご存じでしょうか？400~500万人もいるんです。そして、年間約10万人ものひとがそのせいで骨折しています。

骨粗鬆症は個人差があるものの、誰にでも起こりうる病気です。知らないうちにどんどん骨が脆くなり、ちょっとした拍子に骨折ということに・・・そんなことを防ぐために、骨粗鬆症についての知識を深め、予防に努めましょう。

写真やイラストを用いてわかりやすい展示内容となっていますので、お気軽に足をお運びください。

キミだけのおもちゃをつくらう!!

患者さんの口の中の入れ歯は一人ひとりにぴったり合うようにさまざまな工夫がされています。

そのような入れ歯を制作するための歯科材料をつかって、自分だけのおもちゃを手作りしてみませんか？ ドラえもん、ポケモン、たればんだ、などなど。人気キャラクターグッズをつくってみましょう。

ご来場をお待ちしています。

歯学部長のごあいさつ

— 歯学祭の成功を祈って —

花田 晃治

平成12年度の歯学祭のメインテーマは「21世紀を担う歯学生の祭典」と聞きました。現在在学している学生の皆さんは20世紀から21世紀への継承発展を新潟大学歯学部において経験することになります。20世紀後半において少子化、超高齢化が急速に進みました。このなかにあって歯科医学・歯科医療に対する社会からの期待はますます大きくなってきました。大学での授業を通して、新聞・テレビなどのメディアを通じて皆さんもよく理解してきたと思います。この時、将来、歯科医師として社会に貢献するためにはなにができるか、なにが求められているかを考える時をもつことは非常に大切なことと思います。今年の歯学祭のメインテーマとして21世紀を見据えることとしたことに敬意を表します。

今年の歯学祭においては、「大学で学んだことを活かし、学生の立場から歯科をアピールする展示」「附属病院の企画」「講演会、茶会、LIVE、模擬店、バザーなどの祭」など、多くの企画が立てられています。さらに、5年生による「研究発表」も加わりました。

「学生の、学生による、学生のための、地域の方々のための歯学祭」として盛り上げてください。貴重な時間を割いて歯学祭にご来場いただいた地域の方々に歯科医学・歯科医療を十分にご理解いただくとともに、地域の方々が歯科医療になにを求め、期待しているかを十分にくみ取ってください。こうした貴重な機会に皆さんが経験したことは、これからの授業、実習に大いに役立つものと確信しています。

歯学祭の成功を期待しています。



まずお話ししましょう。

歯学部附属病院ってどんなところ？

— 病院を回って、口の健康につよくなろう —

予防歯科診療室

お口のドック受けていますか？

—むし歯や歯周病からお口の健康を守るために—

保存科診療室

保存科って何するところ？

—歯を抜かないで治療する、その治療法について紹介します。

歯磨きで寿命が延びるって本当？

—歯周炎は身体の健康に影響します。予防と最新の歯周治療について紹介します。

口腔外科診療室

口腔外科(コウクウゲカ)ってなあに？

—口の中を扱う外科。歯を抜くのはもちろん、腫瘍も扱います。

補綴科診療室

咬める喜び ~再び咬めるようになるまで~

—歯がないとどうなるかから壊れたり抜けたりした歯を治すまでを紹介します。

矯正科診療室

素敵な笑顔、きれいな口元のために

—素敵できれいなスマイルとプロファイル(横顔)、矯正の素顔を紹介します。

小児歯科診療室

こども探検隊 ~乳歯から永久歯への旅~

—乳歯から永久歯へと成長していく過程を、探検クイズで紹介します。

加齢歯科診療室

高齢と加齢を考えます

—障害者、高齢者の歯科リハビリテーションを紹介します。

特殊歯科総合治療部

障害がある方も歯科治療できます

—いろいろ障害のある方の歯科治療を紹介します。

健康な顎を維持しよう

—顎関節症でお困りの方、ぜひ見てください。

歯科麻酔科

「ムシ歯の治療がこわ~い、恐ろしい」は昔話!!

—全ての歯科治療は麻酔科で、誰でも、いつでも、痛くなく、快適で、そして安全に受けられます。

病院長のごあいさつ

—歯学祭・今年もがんばれ—

河野 正司

学生諸君にとって最大のエンターテイメントである「歯学祭」が巡ってきた。春の運動会と共に諸君が学生生活をエンジョイするものであろうし、また学生生活を送っている地「新潟」の市民の方々との、歯学生としての交流の場でもあろう。諸君の学んでいる歯科医学とりわけ臨床歯科医学は、患者さんの訴えている歯のみならず口腔内と口腔周囲の痛み、悩みを解決して、「楽しく食べ、愉快地話す」機能を回復させてあげられる医学であります。学生諸君が学んでいるこの臨床の実際を、新潟の皆さんに理解していただく良い機会であらうし、学生諸君にとっても自らの学生生活の目標確認にも大きな役割を果たすことであらう。

野生の動物では、歯の寿命がきて抜け落ちると、その動物の体の寿命も終わっていく。すなわち、栄養を摂取する唯一の道具である歯が失われると、自然に寿命を終えることが、義歯を持たない野生動物の自然の摂理なのであろう。厚生省と歯科医師会は「8020」という、80歳で20本の歯によって食事を楽しもうという運動を押し進めています。現実はまだまだのようです。しかし、失われた歯を義歯によって補綴(ほてつ：人工物で生体の器官を補うこと)すれば、快適な食生活を回復することが可能である。

義歯を口腔内に装着すると、咀嚼能力が回復されるだけでなく、顔貌・審美性も、歯のあった時代へと若返り、高齢者にとっては生活意欲の向上へとつながっていくことがよく報告されている。義歯を使用するまではベットに伏していたお年寄りが、義歯の装着により食事ができるようになっただけではなく、ベットから離れて、外出することができるようになるのである。これまでは、咀嚼のための道具にすぎないと考えられていた歯が、生活を充実する意欲の回復などの、精神的な状態の向上にも大いに関わってきているといえよう。

医学の進歩と我々の努力によって手に入れた高齢社会の中で、おいしい食品を楽しく食べられるようにしたいものです。そのためにも、今年の歯学祭の中で学生諸君の活動が、大きく生かされますように願っています。

University of Minnesota



学問の秋。



ミシシッピ川の上流、アメリカ中西部ミネソタ州にいくつもの広大なキャンパスを有するミネソタ大学は本学の姉妹校である。今年が開学150周年ということで、州をあげての盛り上がりを見せている。

「顎関節症（がくかんせつしょう）って何？」

その1：どんな病気でしょう？

高木 律男

顎関節症って何でしょう？顎（がく）とは“あご”のことで、あごの関節の病気の名前だろうということは想像できるかと思います。では、顎関節はどこにあるのですか？右ですか？左ですか？・・・そうです。右にも左にもあり、一つの骨が左右に走り、その端っこが耳の穴の前で関節を作ってます。しかもその骨の中央部には歯が生えてます。それが“したあご（下顎骨）”です。よく口が開く人ですと、耳の前に指をおいて大きく口を開けるとくぼむ所があります。そこが顎関節です。どうして、口を開けるとくぼむんでしょうか？・・・などなど、いろいろと話はつきません。今回はその1としてどんな病気なのか？を私が担当させていただきます。これまで顎関節症の患者さんを診察してきて、患者さんから聞かれた質問を中心に、いくつかのお話をできるだけわかりやすくお話致します。

さしあたりの項目として、以下の様なものを考えておりますが、こんなことを聞きたいと言うようなことがございましたら、当日でも事前でも結構ですので、お知らせ頂ければ幸いです。(事前であれば時間的にスライドの作製も可能になります)

1. どんな症状があるの？慢性か急性か？進行性か？生活習慣病か？
2. 顎関節のどこが悪いの？
3. どのくらいの人がかかるの？
4. 好発年齢・性別は？
5. 診断のために必要な検査は？
6. 放っておくとどうなるの？
7. 診断の重要性

その2：どのように治療しているの？
ならないようにはどうすればよいの？

鈴木 政弘

もし顎関節症になった場合、どのような治療を受けるのか、どの位の期間かかるのか、といったことが心配かと思えます。また、顎関節症にならないよう予防法があったら是非知りたいのではと思えます。

そこで、新潟大学歯学部附属病院における顎関節症治療について具体的にお話することでそれらの疑問にお答えしようと考えております。特に、「咬み合わせが悪いと顎関節症になると聞いたが、この顎が痛かったり、頭痛がしたりするのは、咬み合わせを治せば治るのか？」といった質問がよくあるので、顎関節症と咬み合わせとの関係について当病院の考え方、取り組みについてご説明致します。また、「現代のストレス社会が顎関節症の増加につながっている」ということもよく耳にされるのではと思えます。ストレスがどのように影響を及ぼし、顎関節症と関係しているのかについて考えてみたいと思えます。

以上のことをお話する中で、顎関節症の発症メカニズムを知っていただき、そのことを十分理解し、日常生活で注意してもらうことによって顎関節症の予防ができると考えています。

略歴

1962年 新潟県新潟市生まれ
1986年 新潟大学歯学部卒業
1991年 新潟大学歯学部歯科補綴学第1講座助手
1997年～99年 米国ケンタッキー大学口腔顔面疼痛センター留学
1999年～ 新潟大学歯学部附属病院特殊歯科総合治療部講師



ご相談は

〒951-8514 新潟市学校町通2-5274
新潟大学歯学部口腔外科学第二講座 高木律男
Tel 025-227-2883 Fax 025-223-5792
e-mail: takagi@dent.niigata-u.ac.jp

略歴

1955年 長野県飯田市出身
1980年 新潟大学歯学部卒業
1980年 新潟大学歯学部口腔外科学第2講座入局
1984年～1986年 新井市厚生連顎南病院歯科勤務
1987年 新潟大学歯学部口腔外科学第2講座助手
1992年 同 助教授
1998年～ 同 教授



さて、ここからさきは・・・



「楽しく食べて健康長寿」

野村 修一

高齢社会を迎えて、人それぞれの生きがいや精神的な豊かさなど、生活の質（QOL：Quality Of Life）が重視されるようになりました。この「生活の質」への日本人の関心、年齢や学歴を問わず、まず健康な生活です。「健康のために何をしていますか？」の問いには、「食事に注意している。多種類の食品を摂るようにしている」との答えが多く、特に、女性の高齢者では多いとの報告があります。日常生活の中で食生活が占める比重は高齢者では大きく、豊かな食生活はQOL改善の基礎です。

歯が抜けたり、痛い歯があると咬めない食物が多くなって、食事の内容が単調になりがちです。食欲も落ちてしまい、栄養不足となるおそれがあります。高齢者では、低栄養が続くと全身の健康を損ね、さらには生命をも危うくする可能性があります。同時に、食事が楽しみではなくなったり、家族や友人と楽しく食事を共にすることができなくなります。

このように、「楽しく、美味しく食べる」には、十分に咀嚼（そしゃく：食物を咬んで細かくし唾液と混ぜて飲みやすくすること）して食べ物の美味しさを味わい、飲み込むという口腔の一連の働きが保たれていることが

必要です。そのためには、口腔内を清潔にして健康に保つことが重要です。特に、高齢者では全身的に病気への抵抗力が低下しているうえに、さまざまな薬の影響で唾液の分泌量が減ってきて、口腔内の細菌に感染しやすいことから、高齢者ほど口腔内を清潔にしておくことが大切です。

“高齢者ほど口腔内を清潔にしておくことが大切です”

さまざまな食べ物を楽しく食べることは、身体の健康を保つための栄養素をとるだけでなく、健康感や心理的な満足感にもつながり、生活への意欲を高める全身の活力源となることから、健やかな老いに欠かすことができません。

略歴

1948年 新潟県生まれ
1973年 新潟大学歯学部卒業
1973年 新潟大学歯科補綴学第1講座助手
1979年 同 講師
1984年 同 助教授
1998年～ 同 加齢歯科学講座教授



歯学祭で歯学部を知ろう

終日 @附属病院大会議室（3F）

—歯学部進学案内—

歯学部紹介ビデオ

歯学部パンフレット

学生の研究発表